



あだいに☆

81号

平成28年 7 月20日

編集発行：男鹿潟上南秋医師会 <http://oknmed.jp>

〒010-0201 秋田県潟上市天王字上江川47 ☎ (018)878-6028 FAX (018)878-2517



目次

- 男鹿潟上南秋医師会長に就任いたしました
佐々木範明 … 2
- 老化について 笹尾 知 … 3
- スーパーインフレに泣かされるのか
浅利正雄 … 5
- この病院の場所は昔、おばあさんの
田んぼだったんですよ 中鉢明彦 … 6
- 交代 ～会報34号の怪～ 佐々木康雄 … 7
- 最優先といわれても… 肥田野文夫 … 8
- こんな私でいいのでしょうか 理事就任
相澤 修 … 9
- 地域医療と国民皆保険（憲法25条）
坪井 純 … 10
- 理事会から① … 11
- 定例総会 … 12
- 生涯教育講座 … 13
山本浩史 先生／佐藤 滋 先生／小松眞史 先生
- 新人紹介 … 17
- ふんふんコラム … 19
- ワンポイントアドバイス⑮ 児玉 光 先生 … 20
- 今日の診察室から③⑩ 佐々木力男 … 21
- 理事会から② … 22
- ナイトキャップ … 23
- 編集後記 … 24
- 表紙説明 … 24

男鹿潟上南秋医師会長に 就任いたしました

佐々木医院（潟上市）

佐々木 範 明



まずは、当院を受診される患者さんの方々にお願いがあります。今後、臨時休診が増えることが予想されます。必ず院内に掲示しますので休診日をご確認ください。また急に受診されるときには、休診ではないか電話してください。お手数をかけます。よろしくお願いします。

さてこの度、男鹿潟上南秋医師会長に就任いたしました佐々木です。改めて挨拶するのはなんだか気恥ずかしいのですが、機会を頂きましたので余談たっぷりで挨拶させていただきます。

昭和34年5月20日生まれ、牡牛座の次男坊、専門科は外科。妻と子供3人、犬（柴犬）2匹。先代院長の父は4年前に他界し

ましたので、今年満90歳の元気な母が1人います。趣味はと聞かれれば、以前はゴルフと答えていたと思いますが、今は庭いじりも含めたハウスキーピングかもしれません。

春、雪解けを待つて、庭の食べられる実のなる木々（りんご、杏、栗、ゆすらうめ、ザクロ、ジューンベリー、ブラックベリー、ブルーベリー）や、花を楽しませてくれる木々（桜、オオヤマレンゲ、ヒメシヤラ、ライラック、モッコウバラ、ハナミズキ）の手入れが始まります。といっても、週末にちよつとずつなので、すぐに初夏になつて、次に緑を楽しませてくれる木々（もみの木、トウヒ、メタセコイ

や、白樺）などの手入れや、芝生の施肥・刈り込み・エアレーションが始まります。また、翌冬用の薪ストーブの原木が取引業者さんから届くのもこの時期で、夏前にこれをチェーンソーで玉切りし、薪割り機や斧で割つて積み上げ・乾燥させる作業があります。また、冬の間に傷んだログハウスの外装のサンダーがけや塗装もします。隙間ので、高所作業車で上に登つての作業もします。これははつきり言つて危ない作業なので間もなく年齢的に出来なくなるかと思つています。でも、登ると気持ち良いんですよ。

夏は害虫駆除や草刈り、水撒き。3種のベリーはこの頃収穫。朝採りのフレッシュな完熟ベリーですが、消費はもっぱら私だけですが。そして犬たちを洗つてブラッシング。そうそう、今年で15歳のうちの柴犬たち（ハナとラン）は、ハナは昨年子宮蓄膿症で手術、ランは今年大きな膀胱結石で手術でした。自分で



自宅とサクラ

出来ないのかもしれませんが、ですが、無事終わつて2匹ともほんとに元気です。秋はリンゴの袋掛け…といつても毎年20個くらいです。『玉林』は大丈夫ですが「つがる」は鳥に突かれるので木全体をネットで覆つて対処しています。そして雪が降る前にいくつかの木々に施肥して、犬たちの冬囲いを作つて、薪ストーブをセットアップして、薪を家の地下に運んで冬を迎えます。



紅葉（左手が自宅玄関）

みえてしまうもので、つい否定してしまおうのですが、医師会長をしていた頃の親父は残念ながら誇るべき父親でした。

古い時代の外科医だった親父は、仲間、特に一緒に仕事をすする「同じ釜の飯を食う」人たちをすごく大事にしていました。その大事な人たちのために、真摯に会長職に奉公していたのを覚えています。他県でのことですが、個別指導を受けた若い医師が不当ともいえるような厳しい指導を受け、自死してしまった事件の後、その不当さを会員に周知すべく資料を懸命に集めコピーして切り貼りしていた姿を覚えています。

自分が医師会長になって具体的に何をしますか？ という問いに対しては、今は何も答えを持っていません。医師会理事として少しは医師会の業務に携わってきましたが、副会長でも議長でも何でもないヒラ理事でしたから、医師会の業務を知らない過ぎますので、取り敢えず目の前に降ってくる雑務を遅滞なく

こなしていくことが一番大事なのかと思っています。

「越えて行けそこを、越えて行けそれを、今はまだ人生（医師会）を語らず」（吉田拓郎『人生を語らず』）ですね。

何年後かに会長職を辞する頃には、少しは医師会のあるべき姿を語れるようになっているかもしれません。地球上のどの国も経験したことのない超高齢化＋人口減少に突入してきてい

る今、医療に関わる決まり事も変更や追加が必要になってくるでしょう。ですが、医師会員も高齢化してきており、業務の負担増加は過度ではあつてはならないと思っています。どう変わ

っていけばいいのか、理事や会員が話し合いしやすい医師会であつて欲しいというのが私の当面の目標です。皆さん、どうぞよろしくお願いします。



老化について

笹尾医院（五城目町）
笹尾 知

ばれい
馬齢という言葉がある。いた

ずらに馬齢を重ねるというように年をとることを謙遜して表すのに用いる。馬の年齢のことではない。私も7月31日で満83才となる。

どうもこの頃、私はそのこと

をいろいろな機会に言い過ぎていく気がする。そして先生は若く見えるとお世辞を言われ、悦に入っている。これぞ馬齢を重ねるということではなからうか。これからはあまり年のことは言わないようにしたい。



H13年34号表紙（写真は当時の著者）

人間は生まれた時から毎日年をとっていくので、その宿命からは逃れられない。老化するというのは、人体を構成している無数の細胞が次第に再分裂を行わなくなつて死滅、アポトーシスという状態になるからである。DNAの尻尾の部分にテロメアと呼ばれる遺伝子のない部分があつて、細胞が分裂を繰り返すとそれが段々短くなつてしまい、細胞はあと分裂できなくなつてしまふ。

若い頃は皮膚でも毎日新しい皮膚ができ、古い皮膚は垢になつて脱落していく。若い頃は風呂に入つてタオルで擦ると垢がボロボロ出たものだが、今では全く出ない。私が嘱託医をしている特別養護老人ホームが始まつた頃、入所しているお年寄りを入浴させると、時々皮膚が赤くなつてひどい時は熱が出ることもあつた。きれいにしてあげようと擦りすぎたのだと思う。再生能力を失つて薄くなつている高齢者の皮膚は、抵抗力を失つて炎症を起こしてしまつたのだらう。あまり擦らないように注意した。日本人は風呂に入

り過ぎるようないふがする。あまりにも臭い（におい）に神経質になりすぎていると思う。高齢者は毎日入浴しても石けんやボディソープは使わず

シャワーで流すくらいで良いと思う。皮脂は体から分泌されたもので、皮膚を守る働きをしており、外からついた汚れではない。砂漠で生活する人は一生入浴しない。それでも、そのため病気をすることもない。

私も敗戦後の満州にいた頃は何か月も風呂に入らなかった。洗濯もろくにできなかったのて下着も替えず虱（しらみ）がたかつた。しかし虱のせいで伝染する発疹チフスにもかからず、引き揚げてくることができた。

満州にいた時はよく馬車に乗つた。タクシーの代わりである。馬車のことを中国語でマーチョと呼んだ。冬になると轡（そり）に変わる。引く時は蒙古馬で昔の日本の馬と同じ小型の馬だつた。

寒い所の馬なので毛深だつた。冬になると吐く息が凍つて口先や睫毛（まつげ）に小さなつららが下がっていた。驢馬（ろば）もよく見かけた。大人がまたがると足が地面につくくらい小型の馬（？）である。小型のわりに力が強く、大

きな荷物を運んでいた。強情なところがあつてなにか気にいらぬことがあると、てこでも動かなくなつてしまふ。道の真ん中で動かなくなつてしまい、引いても押しても鞭（むち）で叩いてもビクともせず、主が困っているのを見たことがある。

馬齢を重ねるといふ言葉はどこからきたのだろう。このような諺めいた言葉は中国の古典から引用しているものが多い。

父の残した厚い辞典を見たが分からなかつた。どうも馬のつく言葉にあまりいいものはない。馬鹿、馬面、馬の耳に念仏、馬耳東風、馬の脚とは大根役者のことを言う。昔から文句も言わず人間のため働いてきた馬にはかわいそうだ。

驢馬と馬の、合いの子（ご）を驪（り）馬という。一代雑種で子（こ）はできない。大きさは馬と同じくらいだが、耳が驢馬と似て長いのが特徴だ。力が強くよく荷車を引かされていた。北満では冬の気温が零下30度以下となり、舗装

されていない道路はかちかちに凍ってしまふ。春になって溶けだすと泥田のようになり、荷馬車はその中に埋まってしまう。馭者^{ぎやしゃ}が長い皮の鞭で驟馬の尻をひっぱたいてもビクともしない。

そんな道路を人が歩くことはできないので、道の両側には一段高く板の歩道が作られていた。西部劇の映画によく出てくる、揺り椅子を置きコーンパイプをくゆらせているあれである。

北満の街ではその板の道の上で湯をわかしお茶を売っていた。湯から出る蒸気を利用して笛を鳴らしていた。その側を通って幼稚園に通っていた。そんなのどかな情景が記憶に残っている。もしアルツハイマー病になれば、そんなことも思い出すことができなくなってしまう。

馬齢を重ねても駄文をひねくりだせば病気の予防になるかもしれない。



スーパーインフレに 泣かされるのか

浅利整形外科医院（八郎潟町）

浅利 正雄

アベノミクスは、成果は挙げているが、絶対先送りしないと断言していた消費税増税は先送りするという。国民に優しい政治家だけだと安心したいのだが、医療、介護にかかる費用はまと

もに打撃を受けるのではないか。保育士の増員、待遇改善は緊急の課題と明言していたが、財源が伴わなければ選挙目当ての絵に画いた餅ではないか。

景気が良くなるに越したこと

はないが、札を増やしても消費は増えない。その膨大な借金は増え続けていても、その対策に触れようともしない。

赤字国債は麻薬のようなものだと慎重であつたはずだったが、100兆に達しようとするに至って土光臨調があつた。痛みも伴つたが、まだまともに借金に向き合っていたような気がする。その後はいろんな理由があるにせよ、毎年赤字国債は増え続け、返すどころか減らすことも考えていないようである。会社だつたらとつと倒産しているし、個人ではまともに生活できず夜逃げしている。

後世に負債を残したくないが、国家の借金個人の力がおよばない。目先のことしか考えない政治家を選んだ私達が悪いと云われれば返す言葉に困るが、何のために国会議員を目指すのか、特に財政については真剣に悩んでほしい。

国民を説得する確固たる決意が必要である。新聞でみたのだが、故梶山静六官房長官の著書

の一節、感銘を受けたので紹介する。

「…ときに国中に我慢を求め、こうしなければならぬという全体像を示して信任を仰がねばならない。いささか技術論に似た各論における『政策論争』等は、政治家のやるべき本質的な仕事とは思えない」（『破壊と創造』講談社）



熊蜂は飛ぶ



田んぼのこの辺？（手前が湖東厚生病院）



この病院の場所は昔、おばあさんの田んぼだったんですよ

湖東厚生病院（八郎潟町）

中 鉢 明 彦

6月最初の週末はてんやわんやでした。金曜日午後に入院患者さんが肺塞栓症になり秋大附属病院へ救急搬送、病院に戻ったのは夜の9時近くでした。さすがに疲れを感じてそのまま帰

宅し、晩酌の後はたちまち爆睡状態でした。日曜朝に病院に来て当日誌を見てビックリ。私の担当の患者さんが週末に3人も亡くなっていました（いずれも癌終末期の患者さんでしたが主治医不在の一日に足並みを揃えるように召されるとは…）。

そして日当直だった日曜日、肺炎で入院していたKさんの容態が急に悪くなり、そのまま月曜日朝に息を引き取りました。お見送りをする時、世話をしてくれたお嫁さんがポツリと一言。「この病院の場所は、昔おばあさんの田んぼだったんですよ。ここで最期を迎えることができて本当に良かった…」

Kさんは10年位前から認知症

が出始め、症状が少しずつ進んでいたようです。2年前の夏、自宅で転んで大腿骨を骨折し秋田市内の病院で手術を受けましたが、寝たきり状態となり、当科外来に紹介されてきました。実際には居ないものが見えたり手足の震えや関節の硬さも目立つことからレビー小体病という進行が速いタイプの認知症が疑われました。

今後の見通しを家族に説明し訪問看護を利用しながら在宅療養が始まりました。食事の際にムセることがあったようですが、年の瀬に肺炎を起こして当院へ初めての入院となりました。肺炎は程なく落ち着き、1ヵ月位かけて何とか口からミキサー食を食べられるようになり、短期入所施設へ退院となりました。それでも言語聴覚士からの評価は十分量を口から摂ることは難しい段階になっているという厳しいものでした。

食べる力を少しでも回復して欲しいという家族の思いとはう

らはらに、その後も肺炎による入退院を繰り返しながら病院での生活の方が長くなっていました。そして昨年の秋、症状悪化で搬送された秋田市内の病院で経鼻胃管（鼻から胃に入れるチューブ）による経管栄養が開始され当院に転院となってきました。勿論、Kさんの認知症は終末期であり、自分が受ける医療についても意思表示が出来なかったのは云うまでもありません。退院から間もない年明けに肺炎で再入院となり、鼻からのチューブは可哀想だという家族の意向を汲んで胃瘻造設を行いました。経鼻胃管から解放されたこともあり退院するときの表情は少しスッキリしたようにも見えました。そして連休過ぎに再入院、回復することなく病院で最期の時を迎えました。

Kさんが人生の最後の2年間をどのように感じながら過ごされたのかは知る由もありません。家族の方もそれぞれの時点で、答えのない問いに悩む日々であ

つたことは想像に難くありません。「誰しも最後は口から食べられなくなる」ということは理屈ではみなわかっています。それでも自分の親が、もう食べられ

なくなってしまうという現実を受け入れること、そして、そのあとの栄養補給（食事ではなく…）をどのようにしてあげるかを決断することは家族にとつ

ては難解で微妙な問題です。病院を後にする家族の方から何気なく発せられた言葉に、湖東厚生病院としての再生の証しの一端を感じられたような気がした

のは、週末に4人の患者さんをお見送りした私にとってささやかな救いだっただかも知れません。

交代 〜会報34号の怪〜

ハートインクリニック（潟上市）

佐々木 康 雄



何とか交代と聞くとつい期待に胸が膨らむ。攻守交代、政権交代、参勤交代…。昼夜交代やチェンジ・コートは別にめでたくもないが、世代交代となると何か人をワクワクさせる。

さて、誰もが齢はとる。美し

くも賢くもならずとも齢だけとはとる。標高が上がるほど下界の景色が広がる登山と同じで、齢をとるほど周りに若い人が増えてゆく。人の半分は女性だから、若い女が増えるといってもいい。

学生時代は40代女性をおばさん、50代教授をじいと呼びわりして恥じなかった。ところが今や大学教授はみな私より若く、頼もしい。加齢も結構。だが人間、齢をとれば無病息災というわけにはいかない。

約15年前、当医師会は「若返り」と称して40代が理事など役員多数を占めた。それが今や、不養生は医者の特権でもあるまにに神田前会長を筆頭に大半の役員が慢性疾患を養っている。

世代交代が必要となったゆえんだ。

15年前の平成13年2月発行「男鹿市南秋田郡医師会報34号」の表紙。笹尾元会長は前額部にまだフサフサしたものがあり、お公家さんみたいな眉毛もくつきりしている。神田前会長も両耳辺りにフサフサが毛羽だつ。40名が微笑む忘年会写真もみな若い。物故会員7名のお人柄からすると、「若返り？ そういうあんだ方もみな還暦じゃねえか」とあの世もきつと騒々しい。

海を隔てた半島北の金さんを「若すぎる」「経験不足」「冒險主義」と批判する向きがある。だが年齢と経験に好ましい比例関係はあるのか。5月はじめ北海道で6日間サバイバルした小学

2年生をみると、年齢や経験うんぬんは大人のやつかみに過ぎない。

運営に苦勞する全国の祭りでは「若者が少ない」とばやきながら超高齢組が実権を手放さない例が多いと聞く。人間の健康寿命があまりにも延び、近隣の祭りも世代交代の機会を逸して危うい。「年寄りの冷や水」という警句も死語。若者も齢を取り、老若の境界はあいまい、妥協と寛容の世代交代をせぬまま滅びの道か。

34号に佐々木範明先生が『満15年』を執筆したのは2000年師走。医師となつて外科を志し、虫垂切除術を初体験した話とその姿を捉えた写真の横に、フランスのボルドーで1985

年に仕込まれたワイン「ムートン」の一枚が並ぶ。虫垂初手術の15年後に奥さんと乾杯し、更にほぼ15年後の今年、当医師会長に就任した。

34号は当会報を創刊された鹿嶋幸治先生の追悼号でもある。先生の口癖は「古いのはどんどん逝く。きりがいいから追悼なんてやらなくていいんだよ」だった。祭りの若返

りは難しくても医師会は世代交代できる。奇しくも南秋田整形外科の小玉弘之院長が秋田県医師会長に就任、互いに徒歩5分の大久保に会長2名。蛇足ながら議長兼編集長もこの5分圏内である。大久保に権力集中：悪い冗談はさて置き、お2人には大いに頑張ってもらいたい。

最優先といわれても…

杉山病院（潟上市）

肥田野 文 夫



— 本稿は最近の出来事をもとにした架空の物語であり、細部もすべてフィクションです。 —

ある日の診察室、1回受診のみの生徒の教頭と担任が来院、「私どもは治療が最優先と考えま

す！」と語気強く切り出され、とりあえず圧倒されました。

数カ月前に発症の統合失調症で命令してくる幻聴に支配されて、行動がまとまらず…という状態が続いていました。発症当時は祖父母両親など家族も困っ

たようで、Aクリニック受診して「入院が必要な状態です」に信じられずに、Bクリニック、C病院とドクターショッピングしてどこでも同じ見立てでしたが、つい最近まで普通だったし何かショックなことがあったに違いない、うちの子が精神病的わけはない、親戚にもそういう遺伝は聞いたことないし…もう少し様子を見ようとなったのでしよう。

このような場合、本人は「自分が病気だ」という認識はない

ので診断→インフォームドコンセントで選択肢を示し、治療の可否、方針は保護義務者（家族）に決めて頂きます。4カ所目で当院を受診したのですが、「もう少し時間を…」と繰り返すばかりで入院にも外来治療にも同意はありませんでした。その数日後、冒頭の「最優先！」の話になるわけですが、学校で徘徊する、奇声を上げるので何とかして欲しいということですね。

精神科医は基本的にお節介ですから、本人不同意、家族同意



34号 範明先生の随想から（右下が初の虫垂手術の場）



同 鹿嶋幸治先生（右上）追悼 左は著者の吉川昭男先生



第4回長信田太鼓ライブ(6月19日 三種町ふるさと文化館)

始動 ～この大地に奮い立ち、己の足で一歩ずつ～
(卒業などでメンバーは大幅に入れ替わったが、熱演は変わらず、客席には感動の嵐が吹き荒れた)

の医療保護入院を勧めることが多いのですが、本人は判断能力がないので別としても、家族に拒否された場合は、手の打ちようがありません。当然ですが、学校の先生は医療の専門家ではありませんから、生徒にどのような対応をすれば良いか、家族に学校での行動を正直に伝えていいもので悩まれた末の「最優先」だったようです。私たちは、個人情報保護異常過剰の時

代に生きていますから、学校側がお忍びで来られた時は「診断」すら開示できないのでこういう状態は一般的な話ですが、どうか答えられないのです。

知的障害でも、ずっと以前には作業所などから、「利用者が興奮して暴れて仕事にならず、対応に困る、家族は治療、薬を飲ませることを拒否する」という相談で回答不能に陥ったことがあります(ちなみに現在は上北手の南ヶ丘に充実した障害児者の専門医療施設があるので、一切新規の知的障害の新患、相談を受けつけてはいません)。現実的な対応としては、「学校は(職場でも同じ)徘徊するところではないので、落ち着いてから登校させて下さい」と家族に率直にお伝えしていいのですけれど。

精神科以外でも、例えばガンと診断したとして、患者さまが「手術も放射線治療も抗ガン剤も必要ない。寿命だから自然にまかせろ」と決められた時は医療の出る幕はないでしょう。それ

でも精神科の場合は当事者すべてが治療を拒否しても、「包丁を持って近所を徘徊している」とさすがに恐いので、「第三者が誰でも保健所に通報して『自傷他害のおそれがある』場合は強制的に診察を受けさせて入院させることができる」という措置入院制度があり、担当役所が誠実に対応してくれますので、重症の患者さまがほっておかれるという心配はありません。

最近、製薬会社の方と話す機会があり、「先生は治療終了をど

のように告げられますか？」と質問があり「患者さんが勝手に『治った』と自己判断されて来なくなります」と答えました。必要な時だけ来られていつの間にかいなくなり、再燃するとまたいらつしやいます。宗教関係者の方には怒られるかもしれませんが「精神科」は神社と同じで『困った時(だけ)の神(医者)頼み』みたいなもの」だとお話します。ですから他人に「治療が最優先」と決めつけられると強い違和感を覚えるのです。



こんな私でいいのでしょうか
理事就任

あいざわ胃腸科クリニック(潟上市)

相澤 修

この度、男鹿潟上南秋医師会の新理事に指名されました「あいざわ胃腸科クリニック」の「あいざわおさむ」です。よろし

くお願いします。自分にこの重責が務まるのかとても不安な日々を送っています。大学の同門会に出席した時、秋田市医師

会の理事をされている諸先輩たちが、その職務の大変さをよく語っていました。そのときは他人事として聞いていましたが、いざ自分が理事という男鹿潟上南秋医師会員の代表（の中の1人）をやることになった時は強い焦りを感じました。それには過去に苦い思い出があるからです。

何を血迷ったのか中学1年生の時、クラス委員に立候補をし

ました。が、あえなく落選。この時、子供ながらに自分はいかに周りからの人気や信頼がない人間なのかを思い知らされ大きなショックを受けたのです。そして今後グループの中では決して目立たぬように、前に出ないようにしようと思に決めました。その後は中学3年でやった応援団副団長以外（この時もかなり抵抗しましたが）「代表」や「長」の付く役をやったことはありません。

せん。現在、「院長」になっていることがとても不思議です。総会での突然の予期せぬ理事指名、なぜ辞退しなかったのか苦悩する日々ですが、佐々木範明先生の新会長就任が決まった後のめでたい雰囲気、水を差す事は、気弱な自分にはとても出来ませんでした。当医師会にも理事をされている先輩がいるので相談しましたが、一言「大丈夫」ということでした。何が大

丈夫なのか疑問ではありませんが、妙な安心感を少しだけ感じました。妻に「理事って何をする仕事なの？」と聞かれ思わず返答に窮してしまいました。そんな自分ですが任期を全うしたいと考えています。どうかよろしくお願いします。



地域医療と国民皆保険（憲法25条）

介護老人保健施設たちね（男鹿市）

坪井 純

地域医療構想

地域医療構想というのは、国の指示により、10年後の2025年に病床を急性期や回復期など4つに分けて、望ましい方向を各都道府県が策定する構想で

す。これはもちろん増大しつつける医療費を少しでも抑制することも目標にしています。秋田県では、急性期病床を7000から3200床と半数以下へ、回復期病床を現在の65

0から2500床へ約4倍にしなければならぬという結果が出ており、現実とは大きな乖離が認められます。秋田県のような大きな面積をもち、人口が少ない過疎地域を多く抱えている所と、人口が集中している東京などの大都市と同様に考えていい問題ではないと思われます。

国民皆保険とアメリカの医療

昭和36年に制定された国民皆保険とよばれる公的保険制度は、

ちようど半世紀をすぎて55年目を迎えており、時代の変化と共に少しずつ修正が加えられましたが、55年後の現在まで骨格がきちんと残っていることはすばらしいことです。その後我が国は世界一の長寿国となり、健康寿命でも世界一となりました。

一方、医療が最も進んでいると考えられているアメリカでは、2010年に無保険をなくすため、オバマケアと一般によばれる「医療保険改革法」が施行さ



山田カップ2016（秋田日赤、中通病院、当医師会の三つ巴戦 井川町日本国花苑 6月11日）

れましたが、うまく働かず、アメリカにおける自己破産の理由のトップは医療費という状態に変化はありません。本当にきちつとした医療を受けられるのは、ごく一部の大金持ちだけという状態です。これだけ日米で差異がでたのは、アメリカでは医療は「ビジネス」という位置づけに起因します。日本では憲法25条で「すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と規定し、これをもとに作成されたのが国民皆保

険制度であるためです。

まとめ

地域医療構想は今後も急速に進む超高齢化社会の到来を迎え、限られた国の予算で医療を提供していくためには必要です。秋田県と、東京などの都会では人口、人口密度、医療従事者数、医療機関数、高機能医療機関数などの人的・物的資源、自治体の財政力、患者の経済力など事情がまったく異なります。病棟や病床の機能を無理に特定の類型にあてはめようとすると、地域の事情に合わなくなってしまうのではないのでしょうか。将来において、あの時こうしておけばよかったと後悔を残さないためにも、十分な議論が必要であると思われる。



理事会から①

H 28年4月26日（火）
天王温泉くらら

神田会長から「今期限りで会長を辞任する。足掛け10年にもなり、健康的にも自信がないので、ぜひ若手に交代してほしい」：座は静まり返った。選挙の告示、立候補者が現れない場合の対応などが話し合われたが、突然の辞任表明に寡黙な会議となった。

5月10日に会長、副会長も含む理事と議長、副議長、監事の選挙告示。役員改選を伴う定例総会は5月24日と決まった。

会報80号の愛称「おだいじに」について編集長から経緯説明。意見や感想を尋ねたところ、領く理事はいたが賛成も反対もなく、これまた沈黙の了承（？）となった。



H 28年5月12日（木）
天王温泉くらら

総会に向け準備会議。10日から理事、議長、副議長、監事の立候補受け付けが始まった。本日の段階で立候補は4名と出足は鈍い。27年度の事業報告、決算等および28年度案をチェックし、会議は短時間で終了した。

定例総会

H 28年 5月 24日(火) 午後7時(ホテルメトロポリタン秋田)

会員総数74名、出席会員と委任状で過半数を超え総会は成立。神田会長の挨拶に続き、27年度事業報告、決算等および28年度事業計画案、予算案、業務分担案等が了承され議題は終了した。

役員等の選定。議長、副議長、監事2名は立候補者数が定員と同数のため無投票当選となった。会長、副会長を含む理事の立候補者は定員に満たないため、定



神田会長、最後の挨拶

款11条により議長が5名の選考委員を指名(敬称略・坪井純、藤原慶正、神田仁、白山公幸、香曾我部秀雄)、別室にて会長、副会長を選考し、結果を議長が報告。全会員の拍手で了承された。

次に定款5条3により議長は理事補充の選考委員会5名(新会長佐々木範明、白山、香曾我部、坪井、藤原)を指名。同じ



手続きを経て以下のように決定した。

会長 佐々木範明

副会長 白山公幸 香曾我部秀雄

理事 中村直文 田村広美

下間信彦 坪井 純

斉藤晴樹 藤原慶正

渡邊 浩 関 仁史

吉田賢志 相澤 修

神田 仁

監事 千葉裕一 中鉢明彦

議長 佐々木康雄

副議長 児玉 光

他に裁定委員、顧問、県医代議員等も決定した。坪井会員から、「今回は役員移行期なので県医師会理事を続投するが、次は若手の藤原慶正先生をお願いしたい」と特別発言があった。

最後に範明新会長挨拶。「親父も会長だったので覚悟していたが、こんなに早く現実になるとは予想していなかった。分からないことが多いので皆さんの協力を得ながら任務を全うしたい」懇親会。範明新会長から、「今までは神田前会長のご挨拶を気楽に聞いていたが、急にこんな



佐々木範明新会長



ところで話をする羽目になり居心地がよくない。皆さんと共に当医師会の活動と地域医療を盛り上げていきたい」と挨拶。香曾我部副会長の音頭で開宴。田沢湖町神代診療所長から4月に井川診療所へ転身し会員となった伊藤貞男先生とは初顔合わせ。また、過去15年間、議長と範明先生が担当してきた忘年会幹事は、相澤先生と関先生に交代と決まった。

午後9時半、白山副会長が、「当医師会の総会を秋田市内でやるしかない事情は些か複雑ですが、皆さんで新体制を支えてまいりましょう」と万歳三唱で締めた。神田会長、10年間のお勤め、ありがとうございます！



男鹿潟上南秋医師会

生涯教育講座

『心臓血管外科と地域医療』



秋田大学大学院 医学系研究科
機能展開医学系 心臓血管外科学講座
教授 山本浩史 先生

日時▼平成28年3月17日
場所▼ホテル大和

近年、全体的な医師不足が地域医療に大きな影響を及ぼしている。特に心臓血管外科医の不足は深刻で、救急医療を含め、心臓血管外科医が本当に頑張らなければ地域医療が崩れていくというような状況である。

医師不足には大都市型の医師不足とへき地型の医師不足がある。大都市型の医師不足は人口当たりの医師不足によるが、比較的狭い面積に人口、急性期医療機関が密集しているため急性期医療の提供能力は高く、地域別の格差も少ない。一方、秋田県は面積が広いため搬送距離が

長く、非常にまばらに生活している医療機関も点在しているため急性期医療の提供能力は低い。また、秋田市周辺に医師が偏在しているため地域別の格差が大きい。さらに、冬季には積雪・寒冷が厳しく、ますます搬送時間が長くなる。秋田県はまさしくへき地型の医師不足であり、患者さんの命に関わる状況は常に大都市以上である。

秋田県における心臓血管外科医療の特徴は、広い面積での医師不足に起因し、長い搬送距離（時間）で助けられない症例もあることである。秋田県で緊急心

臓血管手術が可能な施設は現在、秋田大学病院と由利組合総合病院、平鹿総合病院の3つがあるが、交通の便の問題や常勤麻酔医の不在などのため、県南では緊急心臓血管手術が出来る施設はあるものの、大学に運ぶことが多い。県北には緊急心臓血管手術が可能な施設がない。

秋田大学心臓血管外科が扱う重症疾患としては急性大動脈解離、大動脈瘤破裂、重症連合弁膜症、多枝冠動脈疾患、未熟先天性心疾患、重症下肢虚血、重症心不全などがある。重症心不全の分野はものすごく発達してきていて植え込み型人工心臓というものが普及しつつある。一



水心苑のフジ

方、急性大動脈解離というのはあつという間に命を落とす可能性の高い、非常に恐ろしい病気である。その治療は時間との闘いであり、手術が出来る施設に一刻も早く運ばなければならぬ。急性大動脈解離の手術では人工血管置換術がスタンダードな治療法であるが、低侵襲手術として緊急ステントグラフトやオープンステントグラフトが最近の常識的な治療法になりつつ

ある。オープンステントグラフトの使用数では秋田大学は全国第2位である。
平成24年にドクターヘリの運航が開始され、平成26年5月には秋田大学にもヘリポートが出来た。搬送時間が短縮し救命できる患者さんが増えたが、夜間、天候不良時は運航出来ない。秋田県のドクターヘリは、夏は飛んでも冬は飛べない。
へき地型医師不足における心

臓血管外科医療としては、心臓血管外科医は少ないので新規に各病院に心臓血管外科を開設するのは困難である。したがって、患者さんは近い急性期病院へ搬送し、医師、看護師、技師、企業がチームとなって手術病院に行くようなことが出来ないかと考えている。また、術後の「生活の質」を保つため低侵襲の手術をすることが大切だが、手術・術後管理・リハビリ・自宅

療養・外来通院・再発時の対応をしっかりと診ていくためには病診連携もしっかりと、情報を提供するような場を作っていきたいとも考えている。
大学の使命の1つは、医育機関として入学早期から問題意識と使命感を育てることであり、また、地域中核病院の使命として大病院は地域の重症患者さんの生命を守る「最後のとりで」であるべきだと考えている。

『透析導入患者減少のための慢性腎臓病（CKD）から腎移植までの医療連携』



秋田大学医学部附属病院
腎疾患先端医療センター

教授 佐藤 滋先生

日時▼平成28年4月14日
場所▼ホテル大和

ここ10年、日本全体では毎年新規の血液透析導入患者さんは3万人強、亡くなる方が2

万人強、差し引き1万人くらいの方が毎年増えている、2014年には31万人を超えている。

透析になる原因疾患は1位が糖尿病性腎症、2位が慢性糸球体腎炎、3位が腎硬化症である。最近では腎硬化症、すなわち高齢者あるいは高血圧からくる腎不全の方が増えていて、数年後には1位は糖尿病、2位は腎硬化症、3位が慢性糸球体腎炎という時代が来る。また、腎不全の透析導入の平均年齢が70代になるという時代になってきた。透析患者さんの高齢化である。
透析を導入されたとのくら

い生きられるかというと、年齢別透析患者の平均余命はそれぞれの年齢の一般人口の平均余命の半分であるのが現実である。人口100万人当たり透析患者数が最も多い県は熊本県で、最も少ないのは秋田県である。
2013年、大学に附属病院腎疾患先端医療センターが設立された。このセンターには県から腎移植体制構築ということが委託されている。センターの目的は腎疾患の予防、腎疾患治療の地域連携、保存期腎不全の地域連携、適正な透析療法の普及、



4月14日

腎移植推進、腎移植の質と成績の向上というふうに考えている。人口比透析患者数が最も少ない秋田県での更なる導入患者減少のための慢性腎臓病（CKD）から腎移植までの医療連携システムを開発するというプロジェクトを進めている。具体的には、年間導入患者数を10年後に25%減少するためのCKD対策と先行的腎移植（PEKT）推進の医療連携基盤の開発である。そのためにCKDの時期を、健常腎、CKD発症期、保存期腎不

全期、腎代替療法の4つの時期に分け、それぞれに対しての事業を考えている。CKD発症期の時期にはeGFR測定の推進と医師・保健師連携により患者さんの早期発見を、保存期腎不全期の時期にはCKDステージ4患者さんの受診率の調査、CKD腎移植市民公開講座の開催、他臓器関連セミナー、CKDシールの貼付などを通して透析や腎移植についての啓蒙活動を、腎代替療法の時期には先行的腎移植推進、移植シール・透析シールの貼付、透析患者さんのデータ収集を考えている。

CKDシールというのは、保存期腎不全期以上のCKD患者さんに、CKDシールというものを薬手帳に貼ってもらおうというプロジェクトで、医療従事者間におけるCKD患者さんの認知を促す、CKD患者さんの家族内におけるCKDの認知を促す、CKDの病状経過に沿った適切な薬の投与を促す、市民レベルでCKD対策の認知を促す、という目的がある。

先行的腎移植（PEKT）というのは、ステージ5でいよいよ腎不全になって腎代替療法が必要になってきた方に、腎移植を望む人には透析を経ずに腎移植をしようという話である。先行腎移植の方が予後が良く、ドナーの手術の負担も軽減している。

透析の患者さんは年間500万円の医療費がかかるが、更生

医療になるので患者さんの負担は月々1万円で、お金はそんなにからない。移植も同様である。皆様をお願いします。CKDシール貼付をご理解頂き、シール貼付にご参加ください。eGFRが算出できる検査をお願いします。検診でのeGFR測定普及啓発にお力添えをお願いします。

腎疾患先端医療センターではいろいろな情報を発信している。

『C型肝炎における

IFNfree（インターフェロンフリー）

抗ウイルス療法のインパクト』



地方独立行政法人 市立秋田総合病院

理事長 小松 眞史 先生

日時▶平成28年5月19日
場所▶ホテル大和

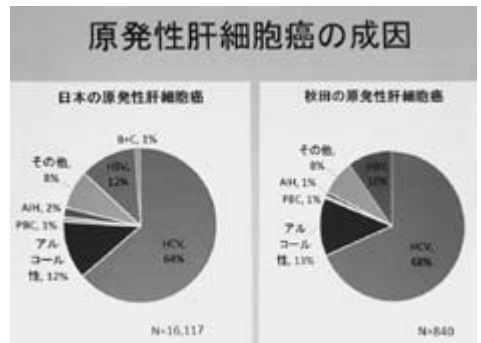
肝臓の死亡数は1975年以降、右肩上がりに増加して2003年がピークで、その後少しずつ減って1985年ころまで

戻っているが、1975年までにはまだ戻っていないのが現状である。

肝臓の原因のほとんどはウィ

ルスによるものである。アルコール性の肝硬変から肝臓癌になる割合も増えては来ているが、C型肝炎が肝臓の原因としては圧倒的に多い。しかし1990年代以降にC型肝炎に対してインターフェロンが盛んに行われるようになってから徐々にその割合は減ってきている。

C型肝炎は、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、小肝細胞癌、進行癌と段階的に進み、肝臓は肝硬変もしくは慢性肝炎でも線維化が進展した状態になって初めて出てくる。したがって、C型肝炎をきちんと発見・管理し、慢性肝炎の時点できちっと治療をすれば発癌を抑制することが出来る。しかし、肝硬変になればいろいろな症状が出るが慢性肝炎ではほとんど自覚症状がなく、健康診断、献血、人間ドック、あるいは他の病気の際に偶然見つかるというのが現状である。肝炎対策の第一歩はいかにキャリア、ウイルスを持っている人を見つけるかということである。



原発性肝細胞癌の主因C型肝炎は激減している

そこで、秋田県の肝炎対策の3本の矢の1つとして、生涯に一度はB型とC型肝炎ウイルス検査をしておくことを勧めている。次に適切な診療で、キャリアが見つかったら一度は肝炎専門医療機関を受診して、治療が必要かどうかの方向性を決めることを勧めている。三番目には経済的援助で、高額な肝炎治療費の助成制度を定めている。

国でも肝炎患拠点病院というのを作って肝炎の撲滅に努めていて、秋田県では市立秋田総合病院と秋田大学附属病院が拠点病院になっている。

C型肝炎の治療目標はHCV（C型肝炎ウイルス）の持続感染により惹起される肝発癌、肝疾患関連死を抑制することである。そのためには抗ウイルス療法によってHCVを排除してやるということ、それにより肝発癌はかなり抑制される。ただし、IFN（インターフェロン）療法でHCVが排除されても肝発癌は完全には抑制出来ないの、長期予後改善のためには肝発癌に対するフォローアップが必要である。

C型肝炎の治療では、非代償性肝硬変を除くすべてのC型肝炎症例が抗ウイルス治療の対象となる。抗ウイルス治療法はほとんど進歩している。1992年、C型肝炎に対しIFN単独療法が保険で認められるようになり、その後、IFNとリビリン併用療法、ペグインターフェロン単独療法を経て2004年、ペグインターフェロンとリビリン併用療法が標準療法として約10年間、盛んに行われた。

その後、ペグインターフェロン、

リビリンにDAAs（直接作用型抗ウイルス薬・C型肝炎ウイルスが複製される時に必要な酵素の働きを妨げてウイルスの増殖を抑える飲み薬。取材者注）が併用されるようになって治療効果が飛躍的に上がった。2014年から複数のDAAsの併用療法が始まりIFN freeの時代に入っている。

IFN併用とIFN free療法の比較では、治療期間はIFN free療法が短くて副作用も少なく、宿主の個体差も報告がなく、代償性肝硬変でも慢性肝炎と同等の効果があるが、一方で耐性ウイルスの影響が大きく、治療コストがまだ高いことがデメリットである。



吉田賢志記者

新人紹介コーナー



井川診療所（井川町）

伊藤 貞男

ました。

その1つは、長女が今年の2月に初孫を出産したことです。現在、生後3カ月ですが、ずっしりと重くなり、私をじっと見つめ、泣いているとき声をかけると泣き止むようになりました。少しずつ人間らしくなり、私の心にも喜びがじわじわと湧いてきました。

私は、静岡県浜名湖畔の湖西市（旧新居町）に生まれました。学生時代は名古屋、札幌で過ごし、結婚を機に秋田市に住んで、もう36年の歳月が過ぎました。今年で69歳になります。家族は妻と1男2女の5人家族でしたが、2人の娘は結婚して、東京と山形に住んでいます。

ここ数年は、刺激のない日々が続いていましたが、今年はいれしいことがあり

2つ目は、井川町診療所に赴任できたことです。仙北市の神代診療所での14年間の診療活動の中で、私は理想どおりにいかない苛立ちと体力の衰えを感じ始めていました。引退してのんびりと好きなことをして暮らすのも悪くはないと思っていました。そんな私に井川町診療所から誘いが来しました。平成26年12月下旬、斎藤前町長さんは入院

中の病院から抜け出し、秋田市まで私に会いに来てくれました。この時は、神代診療所の任期が残っていたために応じることはできず、結果的に悔いの残る辛い別れとなりました。井川町は医師のいない時代が続いていました。息子さんの多聞町長さんも医師を確保するために、1年後の平成28年3月で神代診療所の任期が切れようとしている私を訪ねてきてくれました。井川町で行われてきた地域包括医療・ケアの継続実践をしたいと



国花苑の春

いう強い思いを聞き、心が動きました。

いつまで診療できるだろうかという不安はありましたが、もう少し地域医療に携わってみようかと思うようになりました。まず必要なことは体力をつけることと考え、朝5時頃起きて30分ストレッチをし、飼い犬とともに毎朝20分ぐらい散歩をしています。少しずつ体力が戻ってきたように思います。これからでもできる限り歩き、体力の維持に努めたいと思います。

井川町の診療所に赴任して2カ月が経ちましたが、町当局も診療所のスタッフも協力的で、受診する患者さんたちは穏やかな人たちが多く、楽しく診療しています。

ただ私1人が頑張っても、十分なことはできないと思います。湖東厚生病院や秋

田厚生医療センター、男鹿潟上南秋医師会の先生たちの支援がなければ何もできないと思います。皆様と力を合わせていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。



藤原記念病院
(潟上市)
三浦 一樹

男鹿潟上南秋医師会員の皆様、この会報をご覧の皆様、藤原記念病院の三浦一樹と申します。この3月に秋田市の外旭川病院を定年退職したのを期に、これまで30年近く毎週1回呼吸器外来のお手伝いをしていました当院に常勤として雇用いただいております。

かつて、まだ若造だった私

が当院呼吸器外来で診察させていただくようになるずっと前から、当院には新設秋田大学医学部の各科選りすぐりの諸先生が診療の応援をしてくださり、医療レベルは高く患者さんの信頼も厚く理想的な医療現場でありました。ご赴任の先生たちも皆優れた臨床医で心から尊敬できる方たちばかりでした。縁あってご先代の藤原慶之先生のご薫陶を受ける機会があり、私もいつかはこの病院に腰をすえて呼吸器疾患専門医として地域の医療に貢献したいとずっと思っていたのですが、なかなか希望をかなえるチャンスがなく過してしまいました。大学病院をはじめいくつかの病院に転任しましたが、我がままを言っただけで当院の呼吸器外来だけはずっと続けさせてもらいました。そしてなんと、還暦どころか前期高齢者の年齢になってやっと念願がかなったというわけです。「一生懸命がんばります」と簡単にお約束できない年になってしまっ

ているのが残念です。

これまでの医者人生で、多くの方々からいろいろなことを教えていただきましたが中でも心に残るお3人の方をご紹介します。まずは、初期研修をさせていただいた秋田市の中通病院の故瀬戸泰士院長です。ほとんどの患者さんについて、どこに住んでいてどのような暮らしをし、誰と親戚関係がある、というようなことを本当によくご存知でした。患者さんはそのことだけでも瀬戸先生と病院からきちんと診てもらっていると実感することができていたことでしょう。次は私の恩師秋田大学第二内科初代教授故金澤知博先生です。怖い先生でした。学問だけでなく「自分が担当した患者さんには責任をもって最後までずっと関わりをもち続けなさい」と地域医療の原点を教わりました。そして、藤原先生です。おりおりにさまざまなお相談をさせていただきました。いつでも病院にいらっしゃり、休日も着物を

お召しになって病院で過ごしてました。私の理想でありあこがれでした。若いときに優れた先人の警咳に接することができたことは幸せなことだったと感じています。もっとも、医師会の諸先生はすでに実践されていることではありませんが。

呼吸器外来では主に喘息や肺炎腫、慢性咳嗽、肺線維症などの慢性肺疾患や肺炎、気管支炎などの感染性疾患、肺腫瘍等の診断治療をしています。そして呼吸器「病」のみでなく心身の「未病」の診療を目指しています。私のもうひとつの専門領域である「慢性疲労」もそのひとつです。患者さんには、診察中1回は笑っていたとき、「来てえがったなア」とお得感を持って帰っていただくのが私の願いです。古くて新しい新入会員をよろしく願います。



男鹿みなと市民病院
(男鹿市)
米澤 昌紘

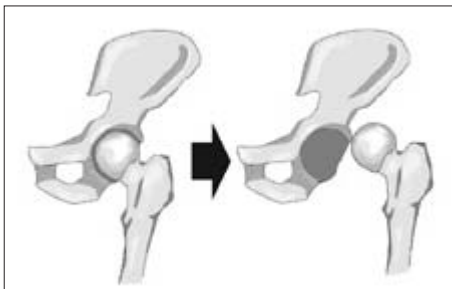
医師兼イラストレーター。
潟上市出身、獨協医科大学
卒業。

医療者の美術サークル『医療
美術部』代表。

今年から男鹿みなと市民病院
の内科医員として勤めている、
ゲームとアニメが好きなオタク
人種。

最近の目標は、ビジュアルで
医療者と非医療者間の知識格差
を減らす事。

▶ 医療美術部 Tシャツ



「楽しく学べる、正しい医
学」をコンセプトに活動し
ています。

是非よろしくお願い致し
ます。

愛車『モンスタースター400』
代表作は『医学語呂なう
本』『菌娘らぼ』等

本欄イラスト・米澤昌紘

ふんふんコラム

謝罪の形

伊勢志摩サミットで来日したオ
バマ米大統領が広島原爆ドームを
訪れた。被爆者と抱擁を交わすな
ど味なパフォーマンスもあった
が、演説も見事であった。

国の威信にかけて米は原爆投下
の非を認めない。むしろ終戦を早
めて犠牲を減らしたと言い張る。
オバマ氏もその姿勢を貫くかにみ
えたが、実は言葉巧みに謝罪を
「連想」させた。大方の日本人も
それを感じ取ったようだ。

イタリア・ルネサンスの彫刻家
ミケランジェロは、「大理石の中
に完成された彫像が潜んでいる」
という。目利きには大理石の中に
珠玉の作品が見えるらしい。

オバマ演説を大理石に喩(たと)
えれば、そこに「謝罪」という彫
像が隠されていた。世阿弥の風姿
花伝「秘すれば花」とは、隠して
こそ美しく、人を感動させる…価
値を見出す任は我にあり。露骨な
謝罪や金銭要求は、秘せずば花な
るべからず、か。

(ふんふんが)



児玉内科医院（八郎潟町）
児玉 光 先生

1 指南役

質問

65才男性。肺炎球菌ワクチンの接種を勧奨されました。老人の肺炎は誤嚥性など他の細菌による場合も多いからムダ、災害等による避難所暮らしを考えれば必要など様々な意見があるようです。価格、摂取回数、副作用なども含め教えてください。

ワンポイント

アドバイス ⑮



おらほの先生から一言
（肺炎球菌ワクチン編）

答え

肺炎球菌は主に気道の分泌物に含まれる細菌で、唾液などを介して飛沫感染し、気管支炎や肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こすことがあります。

肺炎は日本人の死亡原因の第3位であり、日常の環境下で生活を送っている成人の肺炎のうち1/4～1/3は肺炎球菌が原因と考えられています。

平成26年10月から高齢者を対象とした肺炎球菌ワクチンの接種費用の一部を公費で負担する定期接種が開始されました。実施主体は市町村になります。

定期接種の対象者は、平成27年度から平成30年度までは、該当する年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になれる方と60歳から65歳未満の方で、重い心臓病、腎臓病、呼吸器疾患などがある方です。

肺炎球菌には90種類以上の型があり、今回の定期接種で利用されるワクチンはそのうちの23

種類の型を予防の対象としたワクチンです。この23種類の型は、成人の敗血症、髄膜炎などの重い肺炎球菌感染症の原因の約6割を占めています。

ワクチン接種後の副反応としては、接種後に注射部位の腫れ、痛み、熱感、発赤が5%以上で、他に筋肉痛、倦怠感、悪寒、頭痛、発熱なども認められますが、いずれも軽度で1～3日で消失します。まれに重いものもあります。接種後に気になる症状や体調の変化が現れたときは医師にご相談ください。

肺炎球菌ワクチンの効果の持続期間については、健康な人では、少なくとも5年間は効果のある状態が持続するといわれています。しかし、高齢者や免疫機能が低下している人では効果が落ちるのが早いことも知られています。

再接種については、初回接種から5年以内の場合、再接種により注射部位の副反応が初回接種よりも頻度が高く、程度が強

く発現することがあります。初回接種から5年以上経過し、肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険性が極めて高い人を再接種の対象者としています。再接種についてはその必要性を慎重に考慮した上で、前回接種から十分な間隔を確保して接種を行うことが必要です。

最後に、肺炎球菌ワクチンはあくまで肺炎球菌からなる肺炎を予防するもので、全ての肺炎を予防できるわけではありません。また肺炎球菌による肺炎を100%予防できるものでもありません。ワクチン接種したからといって安心せずに、日頃から手洗いやうがいを行って、規則正しい生活で体調を整えることが大切です。また、定期接種の該当年齢でなくても、希望があれば任意（全額自己負担）で接種は可能です。市町村の担当者にご相談ください。

今日の診察室から 30



ささき内科
クリニック
(五城目町)

佐々木力男

5月の下旬、診察中に普段はかかってくることのない妻から突然の電話があった。

「県南で一人暮らしをしている88歳の義母の血圧が180/もある」との事。

以前から血圧が高いとは聞いたことがなく、頭痛や手足の異常はないが、「とにかく具合が悪いし、2度目に測定した血圧は140台/であったが、3度目は170台/になっていた」と不安が強いようであった。

「どうすればいいの」との妻の問いに「頭痛などの高血圧症状が

ないから特に心配いらないが、眩暈で血圧が高くなっているかもしれないから耳鼻科を受診するように」と伝えると、「内科を受診しなくていいの」と返ってきた。

「眩暈は？」と聞くと「はつきりしない、何となく具合が悪い」ということだったので、「最近疲れるようなことをしなかったか」と聞くと「2、3日前に家の片付けを深夜0時頃までやっていたようだ」というので、「降圧剤を服用すると血圧が下がりすぎるかもしれないので、とりあえず眩暈があるのか否か確認するように」と話して終わった。

翌日耳鼻科を受診したところ「回転性眩暈」と診断され、3日間服用しても状態が改善しないため、転倒するリスクが高いことから自宅に呼び寄せて経過をみることにした。

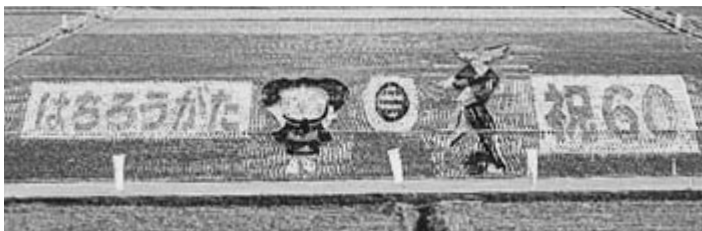
その後、血圧が110/120/50/60台で推移し、入浴後に至っては85/となり、立ちくらみを訴えるようになったため、

シャワー浴だけするようにしたところ状態は安定した。

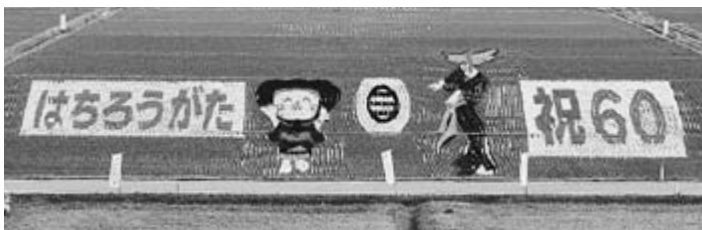
最初の1週間は一日中ほとんど寝ていることが多く、10日ほど経ってから眩暈の訴えもなくなり、食欲も以前に復して自宅に戻った。

後日、妻が「自分たちは血圧が高いから眩暈が起きていると思うが、眩暈のために血圧が高くなるなんてことは思いもしなかった」と言っていたので、

「眩暈にも動揺性眩暈 (Dizziness) と、回転性眩暈 (Vertigo) がある」と、前者が概ね高血圧により、後者は耳鼻科領域、小脳・脳幹部の疾患、脳底動脈循環不全で起こるので、高血圧だから即降



田んぼアートに初挑戦 (八郎潟町賽の神公園から)



10日後 (9月上旬まで見られます)

圧剤の処方とはならない。今回の事がいい例だろう」と説明したが、患者さんたちも妻と同様に考えるのであろう。

こういう事は外来で時々みられ、特に春先・秋口は眩暈や喘息の患者さんが多くなり、春先は急に体を動かして、秋口は夏の疲労が積み重なって眩暈を起

こす事が多く、それに伴って血圧が高くなっている事がよく見受けられる。

外来での血圧だけでなく、血圧の自己測定を勧めて突発的な高血圧の原因を探るように努めており、さらに低血圧についても注意喚起している。

夏場は脱水や降圧剤を服用している患者さんにとって、低血圧による眩暈感・立ちくらみをきたす時期で、こまめに塩分摂取（スポーツドリンクなどで）を促し、降圧剤の減量を行う事で転倒のリスクを減らすようにしているものの、義母のように脱水や降圧剤を服用していなくても入浴が原因で立ちくらみを起こすこともある。

逆に冬季は気温が低くなるため降圧剤を増量するが、予想に反して血圧が低くなって調子が悪いと訴えてくる患者さんがいる。「薬を変えたので調子が悪くなったから、以前の薬に戻してほしい」という患者さんに、電気毛布を使用しているかどうか

を聞くと、ほとんどの人が一晩中使用していることが多い。

また電気毛布をしていないという患者さんでも、寝室が床暖であったりとか全館暖房だったり、冬場での脱水が起こっている。

降圧剤を元に戻す事はもちろんであるが、事前に生活環境を知っておくべきだと痛感させられた事でもある。

血圧管理の困難さは、人によって生活環境、生活習慣、加齢で異なり、同一人であっても状況によって違いがあるという事である。「たかが血圧、されど血圧」といったところだろうか。

最後に、義母から妻への第一報が「1ヵ月前に亡くなった2歳年長の姉が憑いて具合が悪くなった」であった。なんとも愛嬌のある「おおくろさん」である。

今回は、吉成ひろ子先生をお願いします。

理事会から②

H28年6月28日(火)
天王温泉くらら

佐々木範明会長となって初の理事会。秋田県職員3名が会場を訪れ、通院中の患者が特定健診を受けるよう当医師会で勧奨してほしいと訴え、青森県の例を挙げて説明があった。同県では受診するまで執拗に電話をかけるコール・リコール運動で健診受診率が上がったという。

秋田県の計画では、潟上市をモデル地区とし全県に拡大するが、独自健診の井川町は除外する。対象は40～69歳、かかりつけ医が患者に健診を勧めた成果を受診状況連絡票で県へ提出する。どれくらい熱心に指導したか、医師の姿勢が問われる。

医療機関を定期的に受診し、諸検査も受けている患者に、

強く健診を勧めるのも奇妙だと首をかしげる理事もあり、会長も寝耳に水のような話ですねと苦笑した。

他、学校医による児童生徒の運動器、肥満、低身長チェックの件も出たが、個々の生長過程を考慮せずに受診勧奨は困難との意見あり、これも混沌気味だった。



ナイト キャッツ

ONRFにカムバック



たむら船越クリニック
(男鹿市)
田村 広美

日曜の夜、大好きなクライ
ヌリッシュを片手にショ
ン・コネリーの007を見て
いた。1997年のクライヌ
リッシュは最近リリースが相
次ぎ、82年、72年に次ぐ当
たり年だとの噂も出ている。確
かに旨い。

ショーン・コネリーが美女

の肩を抱いて消えて行ったあと、
チャンネルをカチャカチャして
いたらONRFのCMをやっていた。
「男鹿なまはげロックフェス
ティバル」(OGA NAMAHAGE
ROCK FESTIVAL) 昔からのス
タッフは「おんるふ (ONRF)」
と呼んでいた。

屋内での数回のライブを経て
2010年に初めて野外の夏フ
ェスとして開催された。男鹿市
営球場で行われた第1回のONRF
に僕らのクリニックは救護班と
して参加した。翌2011年。
3月に東日本大震災があり僕ら
も釜石への医療チームとして出
かけ、7月には場所を船川港へ
と移しパワーアップしたONRFに
救護班として参加させてもらっ
た。この年は8月にもボーイス
カウト秋田県大会に救護班とし
て参加し、5日間野外救護所の
運営を行い、なかなか忙しい年
だった。その後はさすがに小さ
なクリニックで担当し続けるの
は難しく、みなと市民病院にお
願いし引き継いでもらった。

CMを見ながら女房と「こん

な時間帯にCM出すなんてすご
いね」「実行委員の人たちよく続
けてきたよね」「うん、本当にあ
の人たちは頑張ってるよ」「また
うちのクリニックも行くことに
したんだよね」「うん。少しでも
応援できればいいなと思うんだ」
地域で頑張っている人にエー
ルを送りたいと思う。何かをや
ろうとして頑張っている人がが
っかりしないように、いやにな
って、やらなきゃよかったって
思わないように。あなたたちを
応援している奴がここにいるよ
と知らせたい。人間って、どう
しようもなくしんどくなつて、
「もうダメ」ってなつてしまった
時でも、誰かが自分を応援して
くれているって思うと、もうち
よっとだけ頑張れたりするも
んだろう？

2日前の朝、ONRFにまた来
てみないかと電話があった。以
前もお世話になった救護担当の
実行委員のMさん。ONRFは5年
間の間に規模が大きくなり2日
間になった。そのうちの1日を
担当してみないかというお誘い

だ。老兵が思い出してもらい
声をかけてもらえるのはうれ
しい。早速スタッフを呼んで、
「俺行こうと思うんだけど…」
と切り出すと、「先生が行くと
いうなら、いいですよ。あた
したちも行きます」とうれし
い返事。久しぶりにお手伝い
をさせてもらうことにした。

さて5年ぶりだ。僕も56歳。
一般の会社では定年間近、そ
ろそろ第2の人生を考えよう
かというところだ。半年前に
手術した右膝もまだまだ10
0%には遠い。真夏のアスフ
アルトの上のロックフェス、
何よりも僕が最初に倒れない
ようにしなければ…。

次の日曜には近所の公民館
のトレーニングルームに行っ
てみようかな。ランニングマ
シンでまず歩くところから…。
ショーン・コネリーだって0
07にカムバックしたじゃな
いか。

ネバーセイ・ネバーアゲイ
ン「もう二度とやらない」な
んて僕は言わない。

〈酔〉

編集後記



4月14日に始まり、なかなか余震の収まらない熊本地震災害を支援しようと、わが町内では防災訓練と並行してチャリティバザーを計画し、6月開催に向け準備を始めた。同時に会報原稿も募集開始となる▼近代外科の父アンブロワーズ・パレが16世紀に登場する前のヨーロッパでは、「イギリスの医者は患者を殺し、フランスの医者は何もしない」といわれていたそうだが、その後、植民地を求めて世界に乗り出した英国人は「熱帯の真昼の太陽の中に出ていくのは狂った犬とイギリス人だけ」などとその野心を皮肉られた▼そのイギリスが6月23日の国民投票でEU脱退を決めてしまった。世界経済は混乱、スコットランドとロンドン市は



バザー

英国から独立すると叫び、米のトランプ旋風と相俟って熊本地震も7月参院選も東京都知事選もかすんでしまっ

た。テニスのウインブルドンだけが粛々と進んでいる▼会報81号にも多数の玉稿を賜り感謝。巻頭は10年ぶりに新しく会長に就任した佐々木範明先生が、騒々しい世相をあざ笑うかのようにゆつたりとした挨拶文で飾ってくれた。混乱する地域医療を坪井先生が、迷走する政治経済を浅利先生が論じて下さった▼のどかな中鉢先生の診療風景、肥田野先生の治療論、相澤先生の理事長就任の挨拶も清々しい。大型新人ともいえる伊藤先生、三浦先生の自己紹介はすでに一家をなした風格に満ち、続く米澤先生は一風変わった、イラストによる自己紹介である。学生時代から医療漫画で稼いでいたと聞いて嘩然▼リレーエッセイの力男先生は初登場に近い執筆で、大いにためになった。肺炎球菌ワクチンについて説明して頂いた児玉光先生も同様である。うちの会員たちの多芸多才ぶりには感服するしかない▼80号で試みた会報の愛称「おだいじに」は各方面から好評を博した。元々医師会報らしくない誌面づくりがさらに顕著になった、待合室の棚から持ち帰る人が増えた、どこへ向かうのか男鹿湯上南秋医師会報：▼前掲のチャリティバザーは6月26日に実施、100戸余のわが町内で約5万円が集まった。



一日市盆踊り前夜祭は
8月17日 サンパ必見!

これは被災者に配る義援金ではなく、現地で活動する団体へ支援金として寄付する。防災訓練で感心したのは日本赤十字社製ビニール袋。生米をこれに入れ防災用大鍋で沸かした熱湯に30分浸けただけでご飯は味も舌触りも問題なし▼隣の朝鮮半島に中国、中東、欧州・EU、大統領選で大揺れの米国、頻発するテロと、世界は大鍋の中で沸騰している。編集子も日赤のビニール袋の中で煮えるのを待つコメのような気分だ。大英帝国のガーター勳章には「悪意を抱く者に災いあれ」と刻まれているという。世の中がどうあれ10月発行予定の82号には会員と読者の善意をてんこ盛りしたい。協力宜しく。

(編集長・佐々木康雄)

お便りは 〒018-1401

医師会メールアドレス

info@oknmed.jp
潟上市昭和太字町後173-42
ハートインクリニック 佐々木 康雄

表紙写真 雲昌寺ブル―

菅原 史歩(千葉克介写真教室)

6月下旬、紫陽花で有名な男鹿・北浦の雲昌寺に写真仲間と行ってみました。境内に入ると辺り一面、紫陽花、紫陽花、紫陽花！副住職さんが1本の紫陽花から15年かけて挿し木を繰り返し増やしたそうです。その甲斐あって境内は見物の人、人、人！紫陽花の向こうに男鹿の海、本堂からは軽快なジャズ、人も空気もみんな青に染まっていて、不思議な雰囲気のお寺でした。



紫陽花の向こうに男鹿の海



▲著者